

平成26年度第4回独立行政法人造幣局契約監視委員会議事概要

開催日時及び場所	平成27年3月10日(火) 10時~11時	造幣局会議室
委員	松川 正毅(大阪大学大学院高等司法研究科 教授)(委員長)	
	相原 隆(関西学院大学法学部 教授)	
	和田 馨(独立行政法人造幣局 監事)	
	中津 祐嗣(独立行政法人造幣局 監事)	
審議対象	契約状況の点検・見直し	
	・平成26年度第3四半期における「競争性のない随意契約」	なし
	・平成26年度第3四半期における「一者応札・一者応募契約」	9件 計9件
	・競争性のない随意契約の新規案件	なし
	・2か年度連続して一者応札・応募となった案件	3件
	・2か年度連続して一者応札・応募となった案件で平成27年度においても競争入札等を行う予定があるもの	2件

委員からの意見・質問、それに対する回答等

下記のとおり

委員会による意見の具申又は勧告の内容

特になし

意見・質問	回答
<p>『平成26年度第3四半期における一者応札・応募契約の点検・見直し』について</p> <p>(円形について)</p> <p>・今回、附議されているのは1円貨と5円貨の円形であるが、それ以外の貨種については、どんな状況なのか。</p>	<p>・各貨種ごとに若干状況は異なるが、高額貨幣の500円、100円、50円については、材料の関係で造幣局に技術的優位性があるため、基本的には内製を原則としており、100円、50円の材料が不足する場合に外注業者から白銅鑄塊を買うことがある。10円については、ケースバイケースで内製又は青銅鑄塊等の購入としている。</p> <p>全ての貨幣を内製でできるほどの設備規</p>

<p>・高額貨幣を内製し低額貨幣を外注することは、造幣局として合理的な判断に基づいて行っていると理解してよいか。</p>	<p>模を持っていないので、基本的には高額貨幣を内製して低額貨幣は外注で行うという優先順の考え方で計画している。</p> <p>・貨幣の製造量を将来にわたって確実に見通せるわけではないこと、かつ、円形の在庫を積み上げ過ぎると、金属の表面が劣化し品質的に望ましくないことから、その時々に必要な量を製造することが必要となる。したがって、現状の設備規模で優先的にどの貨種をどれだけ内製するか、不足分はどの貨種をどれだけ外注するかという内製・外注の組合せについては、その都度最も合理的なものとなるよう判断しながら計画している。</p>
--	---